

精神医学講座

教授：繁田 雅弘	老年精神医学
教授：伊藤 洋	精神生理学, 睡眠学
教授：中村 敬	精神病理学, 森田療法
教授：宮田 久嗣	精神薬理学, 薬物依存
教授：須江 洋成	臨床脳波学, てんかん学
准教授：忽滑谷和孝	総合病院精神医学
准教授：山寺 亘	精神生理学, 睡眠学
准教授：小曾根基裕	精神生理学, 睡眠学
准教授：小野 和哉	精神病理学, 児童精神医学
准教授：塩路理恵子	精神病理学, 森田療法
准教授：館野 歩	森田療法, 比較精神療法
准教授：古賀聖名子	精神薬理学, 質の心理学
准教授：鬼頭 伸輔	精神生理学
講師：伊藤 達彦	総合病院精神医学, 精神腫瘍学
講師：川上 正憲	精神病理学, 森田療法
講師：品川俊一郎	老年精神医学
講師：小高 文聰	精神薬理学, 神経画像学

教育・研究概要

I. 老年精神医学研究会

認知症患者や老年期の精神疾患患者に対して、脳画像検査や神経心理検査および遺伝子検索を行い、精神症状や社会認知障害の神経基盤を明らかにする一連の研究を行っている。本学ウイルス学講座との共同研究としてDNAメチル化を指標とした認知症のバイオマーカーの研究を継続しておりDNAメチル化がBPSDの発現に関与する影響についての研究を行っている。また、前頭側頭葉変性症の早期診断法開発および自然歴に影響する臨床・遺伝因子の探索に関する多施設共同研究を継続している。さらに糖尿病・代謝・内分泌内科学講座と協同で認知機能障害を有する老年期2型糖尿病患者に対する治療方針の妥当性の検討の研究も行っている。また放射線医学総合研究所との共同研究にて変性疾患や精神症状のタウイメージングに関する研究を行っている。

II. 森田療法研究会

若手精神科医に向けた基本的な面接技法の研修プログラム・教材を、他学派の精神療法家と共同で開発している。今年度も自閉スペクトラム症を伴う強迫症に対する実践的研究、思春期例と「ひきこもり」に対する森田療法の応用、社交不安症の精神病理学

的研究、入院森田療法におけるうつ病の回復要因についての研究、高齢者に対する森田療法の適応、森田療法の緩和医療への応用についての実践的研究を継続した。

III. 薬理生化学研究会

基礎研究では、げっ歯類を用い、1. 薬物依存の形成機序に関する研究、2. 薬物依存に関連する衝動行為の神経基盤に関する研究および、3. 薬物依存に対する抗渴望薬の開発に関する研究を行った(NTTコミュニケーション科学基礎研究所と専修大学大学院文学研究科心理学部門との共同研究)。

臨床研究では、1. 統合失調症患者の回復期を予測する生育・心理・社会的因子に関する研究、2. 安静時機能的MRIを用いた、D2/3受容体を介した抗精神病薬による顕現性回路の調整メカニズムに関する研究、3. 統合失調症患者におけるアドヒアランスの質的研究を行った。薬理生化学研究会では、基礎と臨床を統合した研究を目指している。

IV. 臨床脳波学研究会

本年度はてんかんに関連して幻覚・妄想等の精神症状を認めた症例について、ネオジャクソニズム(エー・H)をもとに症状の発現につき解釈をこころみた。また、妊娠中でのてんかん例における新規抗てんかん薬の血中濃度変化が検討され新たな報告がなされた。その他の進行中の研究として、精神症状を有するてんかん例の薬物治療の安全性と効果についての研究、そしててんかん例の抑うつ再発予防に関する研究がある。今後さらにてんかん合併女性の妊娠に関する臨床的研究を進める予定である。

V. 精神生理学研究会

1. CAP法を用いた認知行動療法による睡眠構造に与える影響、2. 不眠症を対象とした認知行動療法による睡眠構造および自律神経活動に与える影響、3. 反復性過眠症の治療薬に関する研究、4. 慢性不眠症およびうつ病の不眠症状に対する認知行動療法の有効性に関する研究、5. 漢方薬による睡眠障害に対する効果に関する検討、6. 客観的疲労評価測定による閉塞型睡眠時無呼吸症候群の重症度評価に関する検討、などを開始あるいは継続した。

VI. ニューロモデュレーション研究会

わが国では、およそ100万人の気分障害患者が治療を受けている。一方、治療抵抗性を示すうつ病や双極性うつ病患者への利用可能な治療の選択肢は限

られている。研究会のミッションは、反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) のような侵襲性の低いニューロモデュレーションによって、そのような患者の症状を緩和させることを目指している。さらに、国内外の企業と連携しながら、アンメットニーズに応じた医療機器開発およびレギュラトリーサイエンス研究を推進している。現在、取り組んでいる課題は次の通りである。1. rTMS の国内承認に伴う使用成績調査、2. 先進医療制度を利用した双極性うつ病への適応拡大、3. 維持療法の開発に関する臨床研究、4. 新規刺激条件の開発に関する臨床研究、5. リワーク患者への rTMS 導入に関する臨床研究、6. 磁気けいれん療法 (MST) の開発、7. Computerized cognitive training (CCT) の開発。2017年9月にニューロモデュレーション研究会を設置し、2018年度に向けて、上記の研究および診療の準備を鋭意すすめている。

Ⅶ. 総合病院精神医学研究会

うつ病の再発予防教育では、ビデオ教材をスライド化し、より柔軟に患者のニーズに対応した。効果判定の心理検査では、認知・行動感情の3側面と総合的なパーソナリティの測定に加え、うつ病の寛解期における睡眠状態を把握する目的で、新たに睡眠評価尺度も取り入れた。また、最近増加しているパーソナリティの未成熟性や偏りが存在する症例や双極性うつ病にも対応するプログラムを検討した。末期患者に対する終末期医療 (緩和ケア) では、癌センター東病院との数年来の共同研究により、がん患者、その家族、および遺族の心理的課題に関する研究を行った。さらに、入院患者やスタッフから要請を受けて、臨床心理士を中心とした精神科スタッフがメンタルサポートを開始した。

原発性消化器がんの術後せん妄のリスクファクターに関する研究を行っている。

Ⅷ. 精神病理・精神療法・児童精神医学研究会

レジデントへの精神療法マインド涵養のためのスーパービジョン (スーパーバイザー: 牛島定信先生、症例提示: 川上、瀬戸) を2回開催した。第24回臨床精神病理ワークショップ (東京) で「抑うつ状態を呈したスキゾイド病理を持つ女性例ーその診断と治療をめぐるー」と題して発表を行った。第64回日本病跡学会総会において「森田正馬の病跡ー健康生成 (サリュートジェネシス) の観点からー」と題して発表を行った。今後は、1. スーパービジョンの継続、2. ポストモダンにおける生の欲望 (森

田正馬) の有用性の吟、3. ポストモダンにおける森田神経質の亜型に関する研究を行っていく方針である。

Ⅸ. 臨床心理学研究会

2017年度も心理療法の技法の向上を図るために、症例検討を継続して行った。また、認知行動療法、アートセラピー、治療的アセスメント、森田療法、緩和ケア、サイコオンコロジー、社会技能訓練などのさらなる学習を行った。心理テストについては、発達障害、高次脳機能障害を中心に研究をすすめた。このような臨床・研究活動のみならず、心理研修生を受け入れ、心理学的教育に積極的に取り組んだ。

「点検・評価」

2017年度においても、9部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎研究から臨床研究まで幅広い方法論で研究活動を行った。このことは、神経科学から精神療法まで幅広い知識が必要とされる精神科治療を実践するに際して望ましい研究体制にあるといえる。研究活動においては、従来通り、それぞれの研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえず、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画する必要性を感じている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Shinagawa S, Shigenobu K, Tagai K, Fukuhara R, Kamimura N, Mori T, Yoshiyama K, Kazui H, Nakayama K, Ikeda M. Violation of laws in frontotemporal dementia: a multicenter study in Japan. *J Alzheimers Dis* 2017; 57(4): 1221-7.
- 2) Chung JK, Plitman E, Nakajima S, Caravaggio F, Iwata Y, Gerretsen P, Kim J, Takeuchi H, Shinagawa S, Patel R, Chakravarty MM, Graff-Guerrero A; Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative. Hippocampal and clinical trajectories of mild cognitive impairment with suspected non-Alzheimer's disease pathology. *J Alzheimers Dis* 2017; 58(3): 747-62.
- 3) Nagata T, Nakajima S, Shinagawa S, Plitman E, Graff-Guerrero A, Mimura M, Nakayama K. Baseline predictors of antipsychotic treatment continuation

- and response at week 8 in patients with Alzheimer's disease with psychosis or aggressive symptoms: an analysis of the CATIE-AD Study. *J Alzheimers Dis* 2017; 60(1): 263-72.
- 4) Chung JK, Plitman E, Nakajima S, Caravaggio F, Iwata Y, Gerretsen P, Kim J, Takeuchi H, Shinagawa S, Patel R, Chakravarty MM, Graff-Guerrero A. The effects of cortical hypometabolism and hippocampal atrophy on clinical trajectories in mild cognitive impairment with suspected non-Alzheimer's pathology. *J Alzheimers Dis* 2017; 60(2): 341-7.
 - 5) Ito H, Kawaguchi H, Kodaka F, Takuwa H, Ikoma Y, Shimada H, Kimura Y, Seki C, Kubo H, Ishii S, Takano H, Suhara T. Normative data of dopaminergic neurotransmission functions in substantia nigra measured with MRI and PET: neuromelanin, dopamine synthesis, dopamine transporters, and dopamine D2 receptors. *Neuroimage* 2017; 158: 12-7.
 - 6) Kubota M, Nagashima T, Takano H, Kodaka F, Fujiwara H, Takahata K, Moriguchi S, Kimura Y, Higuchi M, Okubo Y, Takahashi H, Ito H, Suhara T. Affinity states of striatal dopamine D2 receptors in antipsychotic-free patients with schizophrenia. *Int J Neuropsychopharmacol* 2017; 20(11): 928-35.
 - 7) Nagata T, Nakajima S, Shinagawa S, Plitman E, Graff-Guerrero A, Mimura M, Nakayama K. Psychosocial or clinico-demographic factors related to neuropsychiatric symptoms in patients with Alzheimer's disease needing interventional treatment: analysis of the CATIE-AD study. *Int J Geriatr Psychiatry* 2017; 32(12): 1264-71.
 - 8) Tagai K, Shinagawa S, Kada H, Inamura K, Nagata T, Nakayama K. Anosognosia in mild Alzheimer's disease is correlated with not only neural dysfunction but also compensation. *Psychogeriatrics* 2018; 18(2): 81-8.
 - 9) 互 健二, 品川俊一郎, 西根 久, 平川淳一, 樋口英二郎, 繁田雅弘. 【超高齢化社会の精神科診療】老年期精神疾患とレビー小体型認知症との鑑別におけるスクリーニングツールとしてのパレイドリアテストの有用性. *臨精医* 2017; 46(11): 1385-93.
 - 10) 館野 歩. 森田療法と Acceptance and Commitment Therapy (ACT) の完成に与えた文化的影響. *こころと文化* 2018; 17(1): 47-55.
- 421-7.
- 2) 山寺 亘. 【認知症と睡眠をめぐる】加齢に伴う睡眠構造の変化. *老年精医誌* 2017; 28(4): 329-34.
 - 3) 館野 歩. 【強迫症の理解と治療の新たな展開 II】強迫症の森田療法. *精神科治療* 2017; 32(4): 491-6.
 - 4) 品川俊一郎. 【認知症 1,000 万人時代を目前に控えて - 最新の診断, マネジメント, そして分子標的治療へ】非 Alzheimer 型認知症の病態研究の最前線 前頭側頭葉変性症. *内科* 2017; 120(2): 243-6.
 - 5) 山寺 亘. 【精神医学症候群 (第 2 版) - 不安症から秩序破壊的・衝動制御・素行症まで -】睡眠-覚醒障害群 睡眠障害の対応と治療 非薬物療法. *日臨* 2017; 別冊精神医学症候群 II: 456-60.
 - 6) 品川俊一郎. 認知症の食行動異常. *神心理学* 2017; 33(3): 161-6.
 - 7) 西山 扶, 石井洵平, 小高文聰, 宮田久嗣. 【双極性障害薬物療法の State of the Art II】精神医学的併存症をもつ双極性障害の治療 OCD, パニック障害など. *精神科治療* 2017; 32(10): 1279-83.
 - 8) 館野 歩, 松村亮明. 【日常診療における病識・病感・負担感の取り扱い-治療効果を高めるための工夫-】強迫症/強迫性障害. *臨精医* 2017; 46(12): 1483-8.
 - 9) 山寺 亘. 不眠の認知行動療法 うまくいかないときの“見直し”ポイント (第 21 回) 睡眠覚醒パターンの観点から. *睡眠医療* 2018; 12(1): 122-5.
 - 10) 植草朋子, 品川俊一郎. 【うつ病と認知症: 鑑別と関連性】うつ病とアルツハイマー型認知症. *老年精医誌* 2018; 29(3): 249-57.

III. 学会発表

- 1) 山寺 亘. (企画シンポジウム 16: 慢性不眠治療のストラテジー) 心身疾患における不眠症の特徴と対応 - 併存不眠症に対する個人認知行動療法の治療効果を主として -. 第 58 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 札幌, 6 月.
- 2) 山寺 亘. (共催シンポジウム 4: 気分障害と睡眠) 睡眠障害を伴ううつ病の薬物療法~抗うつ薬単剤治療の経験から~. 日本睡眠学会第 42 回定期学術集会. 横浜, 6 月.
- 3) 松田勇紀, 鬼頭伸輔, 戸口裕介, 関谷純平, 藤井 猛, 池澤 聰, 野田隆政, 中込和幸. 難治性双極性うつ病への反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS). 第 113 回日本精神神経学会学術総会. 名古屋, 6 月.
- 4) 鈴木貴子, 山寺 亘. (シンポジウム 14: 睡眠問題) に対する認知行動療法の最新動向: 今後の発展を見据えて) 併存不眠症に対する CBT-I の実践. 日本睡眠学会第 42 回定期学術集会. 横浜, 6 月.
- 5) 品川俊一郎. (シンポジウム 53: 前頭側頭型認知症) における軽犯罪) 前頭側頭型認知症の社会的行動の障

II. 総 説

- 1) 小高文聰, 石井洵平, 宮田久嗣. 【身体疾患に見られる精神症状の診断と治療】肝障害に併発する精神症状とその治療的アプローチ. *臨精薬理* 2017; 20(4):

- 害と軽犯罪. 第113回日本精神神経学会. 名古屋, 6月.
- 6) 川上正憲, 中山和彦, 森田正馬の病跡-健康生成論 (サリユートジェネシス)の観点から-. 第64回日本病跡学会総会. 京都, 7月.
- 7) 松田勇紀, 鬼頭伸輔, 関谷純平, 戸口裕介. 難治性双極性うつ病の認知機能に対する反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS). 第39回日本生物学的精神医学会・第47回日本神経精神薬理学会合同年会. 札幌, 9月.
- 8) 品川俊一郎. 認知症における食行動異常の神経基盤と治療. 第39回日本生物学的精神医学会・第47回日本神経精神薬理学会合同年会. 札幌, 9月.
- 9) Tateno A, Ishiyama I. Classical residential Morita therapy. Second Annual Mental Health Services Research Seminar: Introduction to Japanese Morita Therapy. Surrey, Oct.
- 10) 松田勇紀, 関谷純平, 戸口裕介, 鬼頭伸輔. 難治性双極性うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS)の有効性検討. 第47回日本臨床神経生理学会学術総会. 横浜, 11月.
- 11) 松田勇紀, 岸 太郎, 岩田伸生. (rapid fire talks: 統合失調症メタ解析 Up to Date)日本人統合失調症のみを対象とした抗精神病薬のネットワークメタ解析. 第27回日本臨床神経精神薬理学会. 松江, 11月.
- 12) 舘野 歩, 鈴木優一, 谷井一夫, 塩路理恵子, 今村祐子, 赤川直子, 中村 敬, 繁田雅弘. 入院森田療法を施行された広汎性発達障害患者の改善群と非改善群の臨床特徴. 第35回日本森田療法学会. 熊本, 11月.
- 13) 品川俊一郎. (シンポジウム 25: 前頭側頭葉変性症の分子病態と診断・治療) 前頭側頭型認知症の治療薬物療法と非薬物療法. 第36回日本認知症学会学術集会. 金沢, 11月.
- 14) 川上正憲. 抑うつ状態を呈したスキゾイド病理を持つ女性例-その診断と治療をめぐって-. 第24回臨床精神病理ワークショップ. 東京, 2月.
- まで. 東京: 医学書院, 2017. p.10-20.
- 4) 品川俊一郎. 第3章 知っておきたい, MCIとさまざまな認知症 その他の認知症の病態と対応-アルツハイマー病との違いを中心に 前頭側頭型認知症. 上田 諭 (東京医療学院大) 編. 認知症はこう診る: 初回面接・診断から BPSD の対応まで. 東京: 医学書院, 2017. p.237-43.

IV. 著 書

- 1) 山寺 亘. 第I章: 不眠治療に要する基礎知識 5. 不眠症の性格・精神病理. 三島和夫 (国立精神・神経医療研究センター) 編. 不眠症治療のパラダイムシフト: ライフスタイル改善と効果的な薬物療法. 大阪: 医薬ジャーナル社, 2017. p.44-8.
- 2) 山寺 亘. 不眠に対する認知行動療法の最先端. 伊藤 洋, 小曾根基裕編. 睡眠障害診療: 29のエッセンス (別冊・医学のあゆみ). 東京: 医歯薬出版, 2017. p.111-5.
- 3) 互 健二, 品川俊一郎. 第1章: 診療のためにまず知るべきこと 認知症 (アルツハイマー病) の「脳」と「心」の基礎知識. 上田 諭 (東京医療学院大) 編. 認知症はこう診る: 初回面接・診断から BPSD の対応